

2011 年

### 3 月 27 日（日曜日） 震災からの久美浜復興のシンボル修景 - 久美浜公会堂修景記念式典 -

はじめに、東北関東大震災でお亡くなりになられた大変多くの方々に対しまして、心から哀悼の誠を捧げますとともに、行方不明の方々の一日も早い安全と所在の確認、被災された方々、被災地の早急な復興を心から念じています。

本市も、大正 14 年の北但大震災、昭和 2 年の北丹大震災と、当時、2 度にわたり大きな震災を受けました。その際も、全国各地、海外からも多くの義援金や救援物資を賜り、これらを復興資金として、住民の生活支援、まちなみの整備をはじめ河川改修、道路整備等を行い、街の復興が進み、その中で、文化交流の拠点、復興のシンボルとして、昭和 5 年、久美浜公会堂が建立されたとお伺いしています。

本日は、その久美浜公会堂の修景記念式典が大勢の地元関係者の皆様のご列席の中で開催され、心からお祝いを申し上げます。昭和 5 年の建立から長い年月が経過し建物の老朽化も見受けられますことから、今年度、復旧のための改修工事が行われたもので、このように伝統的な街なみの中心的なシンボルとして修景が図られましたことは、大変、素晴らしく感じております。

この修理は、久美浜一区街なみ環境整備事業の一環として実施されたものですが、この事業は、伝統的な街なみを保全・復活させ、ゆとりと潤いのある街づくりを進めるため、平成 16 年度から、街なみに配慮した住宅・公共施設などの外観改修、道路のカラー舗装、ポケットパークの整備などの各種のまちの外観整備に取り組みが進められています。

今回、豪商稲葉本家の文化遺産と並び、地区の象徴的な建物の修景が完成したわけですが、時を同じくして先ごろは、久美浜一区全体が京都府の景観資産に登録を果たされるとともに、地域活動の中心となる「NPO わくわくする久美浜をつくる会」もご発足され、まさに、かつて明治の草創期、周辺五国の県庁所在地でもあったこの地域の活力と賑わいの復活・復興に向けて、その中心となる心臓部の機能が整えられたかのようにです。今後も環境整備の取り組みが進められますが、今回の修景を確かなはずみにさせて、久美浜の伝統と文化がますます生きづく、ゆとりと潤いのあるまちづくりが伸びゆきましますよう、心から期待をしています。